

# 避暑避寒対策事例集 (現場環境改善費・真夏日補正)

監理課技術管理室  
令和8年6月

- 令和7年7月から、土木請負工事において、現場環境改善費の避暑避寒対策は追加で積上げ計上（上限額あり）。
- 令和8年5月から、土木請負委託業務においても、避暑避寒対策は追加で積上げ計上（適宜協議）。
- 本事例集では、避暑避寒対策に関する事例を紹介する。

・本事例集では、過去に県発注工事で確認された事例を紹介している。

そのほか下記からも写真を出典している

- ・「令和版STOP！熱中症～建設現場での熱中症の発生・重篤化を防ぐため～」(令和元年国土交通省大臣官房技術調査課)
- ・「建設工事における猛暑対策事例集」(令和7年12月国土交通省)

## 土木請負工事

- ・避暑避寒対策には、**現場環境改善費**と**真夏日補正**によるものがある。
  - ・**現場環境改善費** …… 主に現場の施設や設備に対する熱中症対策費用
  - ・**真夏日補正** …… 主に作業員個人に対する熱中症対策費用  
(令和5年5月8日一部改訂「熱中症対策に資する現場管理費の補正の要領」)

- ・港湾請負工事では、現場環境改善費の避暑避寒対策に関して、**率に含むものが定められているので、注意すること。**

(通知) 令和7年7月17日付 監第694号「港湾請負工事における熱中症予防・防寒対策に関する費用計上について」

## 土木請負委託業務

- ・避暑避寒対策には、**直接経費**と**間接調査費**に計上となる。

(通知) 令和8年5月14日付 監第193号「設計業務における熱中症対策に係る費用について」

- ・**真夏日補正** …… 主に作業員個人に対する熱中症対策費用は率に含まれているため注意

## ○大型扇風機・ドライミスト



## ○給水器・ウォーターサーバー



リース品・・・必要な金額を計上 購入品・・・減価償却費を計上

## ○冷房・暖房・エアコン



## ○冷蔵庫

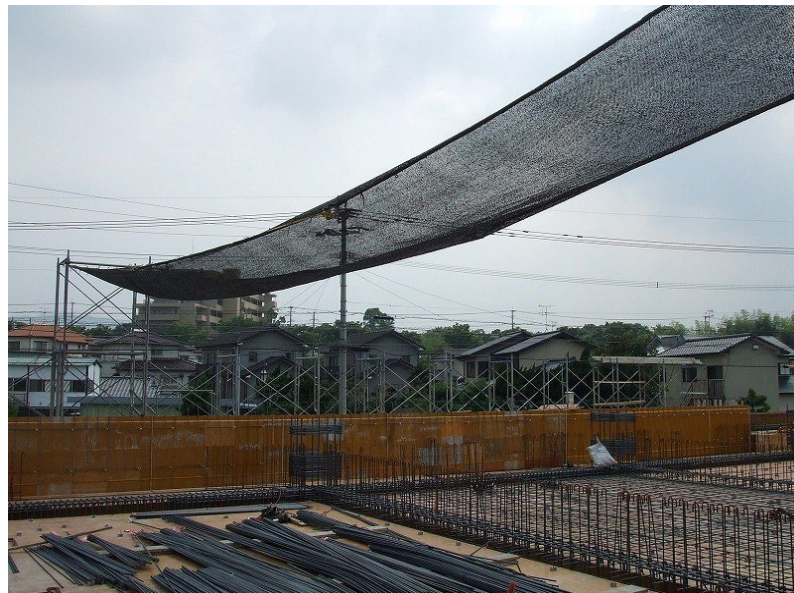


リース品・・・必要な金額を計上 購入品・・・減価償却費を計上

## ○暑さ測定器具



## ○遮光ネット



リース品・・・必要な金額を計上 購入品・・・減価償却費を計上

## ○簡易休憩所（日よけテント）



## ○車内休憩所



リース品・・・必要な金額を計上 購入品・・・減価償却費を計上

## ○塩飴



## ○経口補水液等の飲料水



## ○熱中症対策キット



## ○空調服



・委託業務では、**真夏日補正**（主に作業員個人に対する熱中症対策費用）は率に含まれているため注意

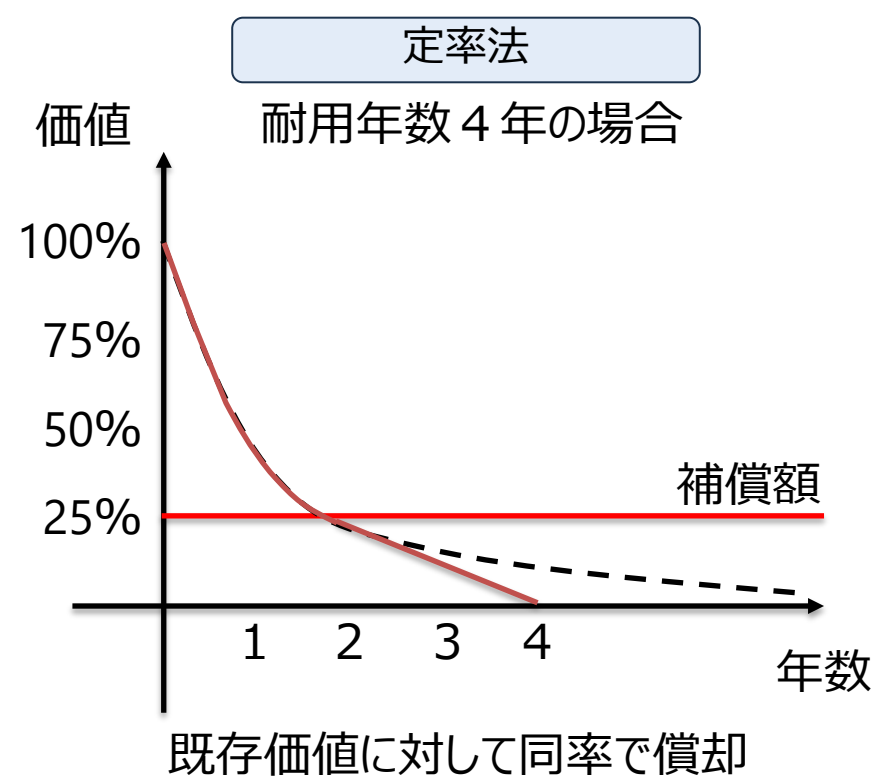
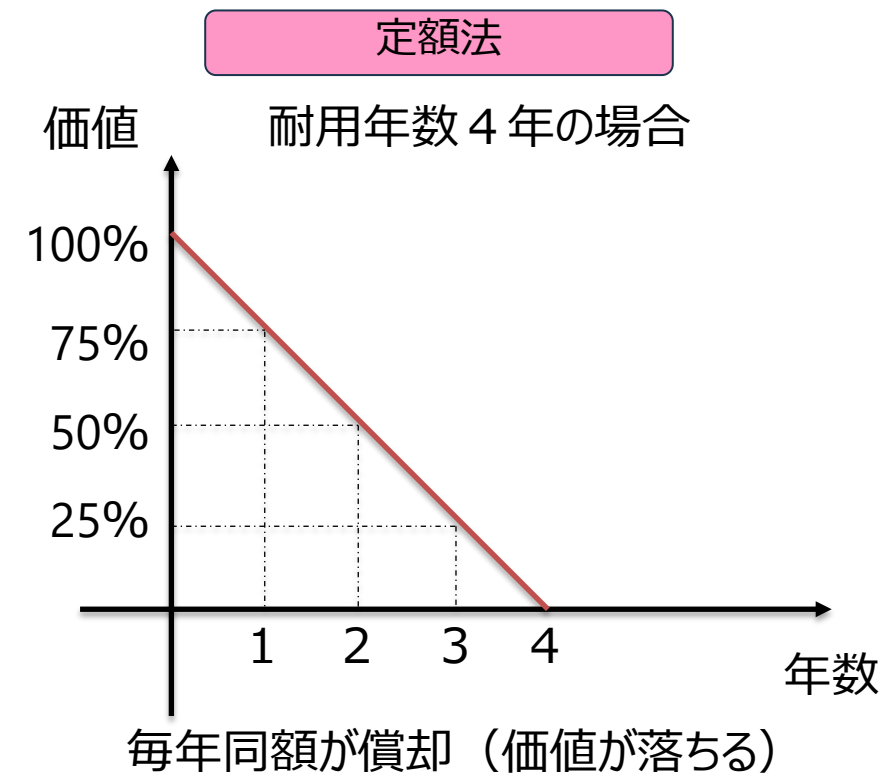
# 購入品の計上方法

購入品の場合、当該工事での施設・設備の設置期間分の減価償却費を監督員に提出

- 減価償却費の計算方法は、「定額法」「定率法」のいずれかで計算（方法は問わない）
- 減価償却方法はいつでもよいが、計算方法提示を必須とする。（汎用の計算サイト等でも可）

※減価償却率は「主な減価償却資産の耐用年数表（国税庁）」により、耐用年数を確認の上、「減価償却資産の償却率等表（国税庁）」を活用する。

## 減価償却方法の違い（イメージ）



※既存価値が補償以下になるまでは、既存価値に対して同率償却だが、補償価値以下になる場合は、以降各年の既存価値を固定し、同率で償却（疑似的に定額償却となる）

## ● 職場における熱中症予防対策マニュアル及び働く人の今すぐ使える熱中症ガイド (厚生労働省 [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116133\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116133_00001.html)) より抜粋

### ① 涼しい環境への避難

- 風通しの良い日陰や、できればクーラーが効いている室内などに避難させましょう。

### ② 身体冷却

- **体温の冷却はできるだけ早く行う**必要があります。重傷者を究明できるかどうかは、いかに早く体温を下げるができるかにかかっています。
- 救急車を要請したとしても、その到着前から冷却を開始することが求められています。
- 深部体温で40°Cを超える全身けいれん（全身をひきつける）、血液凝固障害（血液が固まらない）など危険な症状も現れます。
- 身体冷却の方法
  - 例 1 作業着を脱がせ、水をかけ、全身を急速冷却
  - 例 2 濡れタオルなどを身体にあて、扇風機で風を当てる

### ③ 水分・塩分の補給

- **冷たい水を持たせて、自分で飲んでもらいます。**  
冷たい飲み物は胃の表面から体の熱を奪います。同時に脱水の補正も可能です。  
大量の発汗があった場合には汗で失われた塩分も適切に補える経口補水液やスポーツドリンクなどが最適です。食塩水（水1Lに1～2gの食塩）も有効です。
- 応答が明瞭で、**意識がはっきりしているなら**、口から冷やした**水分をどんどん与えて**ください。
- 「呼びかけや刺激に対する反応がおかしい」、「応えない（意識障害がある）」時には誤って水分が気道に流れ込む可能性があります。また「吐き気を訴える」ないし「吐く」という症状は、すでに胃腸の動きが鈍っている証拠です。これらの場合には、経口で水分を入れるのは禁物で、病院での点滴が必要です。

### ④ 医療機関へ運ぶ

- **自力で水分の摂取ができないときは**、点滴で補う必要があるので、**緊急で医療機関に搬送**することが最優先の対処方法です。
- 実際に、救急搬送される熱中症の半数程度がⅢ度ないしⅡ度で、医療機関での輸液（静脈注射による水分の投与）や厳重な管理（血圧や尿量のモニタリングなど）、肝障害や腎障害の検索が必要となってきます。